



(本 社) 甲府市増坪町74	TEL055-241-3151 FAX055-241-8530
(営業所) 上野原市新田661	TEL0554-62-3321 FAX0554-62-3322

早春の候、貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
いつもお引き立て頂き、誠に有難うございます。
今回は社内案内として**切断倉庫部**を紹介致します。(切断倉庫部 赤木)

＜編集者＞
塚原 佳由
望月 博隆
村松 貴
赤木 健三
山田 幸平

鋼種 Q & A ～切断倉庫部について～



我が社の現場では毎年、甲府工業高校の生徒を招き、本年度は『工業系高校生実践的技術向上事業』として現場実習を行っています。その狙いは、地域産業界と工業高校との連携による、ものづくり人材育成の仕組みを構築することを目的として行っています。

主に、仕事の内容(鋼材等)や流れ、機械の特徴、安全面を説明し、理解して頂いてから、実際に機械に触れて学校の授業では体験できないことを感じて頂きます。少しでも生徒さんに伝えたいという想いで真剣に向き合っています。実習では、『時間』をテーマに行い、そのことで納期の大切さや段取りの重要性など、普段当たり前に過ぎていく『時間』がどれだけ大切なことか、実習を通して学んでいただいています。これからの山梨の製造業を担う若手の技術向上に少しでもお役に立てれば・・・。実習の感想では、『学校には無い大きな機械に触れることが出来て嬉しかった』、『時間の中で、ものづくりが行われている事が分かった』など、様々な感想や想いを頂いています。今後も生徒さんと共に成長し、より多くの生徒さんに伝えていければと思っております。

切断機を使用し、
実際に鋼材を
切断している様子



マシニングセンターにて
プログラムを作成し
加工している様子



★社長のワンポイント★ 当社のお客様でもあり、創業者の故寺町博会長に創業時から大変御世話になり、永いお付き合いをさせていただいております。東証一部上場の「THK(株)」の寺町彰博社長の平成20年9月17日の山梨日日新聞記事「TOPインタビュー」の中で、企業流出への見解ということで、『製造業で言えば山梨は首都圏に近い立地や器用な人が多いという県民性の魅力はある。しかし、就労人口が少なく人材確保が大きなネックだ。私が初代甲府工場を努めていた時代、山梨で工場拡張を計画したものの土地確保できず、熱心な誘致を受けた山口県と山形県に新工場を建てた経緯がある。今思えば山梨で拡大しても採用面で苦労しただろう。また、企業誘致策だけでなく、地元根付いた企業へのフォローアップが必要でないか。税収や雇用創出、地元企業との取引で地域経済活性化に貢献する親企業をとどめるような税制面等の施策を魚ウイには期待したい』約10年前のインタビューであります。山梨の製造業の置かれている姿をしっかりと伝え、今後の山梨県行政全体がどの方向に行かなくてはならないのかを伝えた記事であると思っております。現状親企業が県外国外に進出して、山梨全体の製造業の雇用に関しては不安定要素ばかり、折角進出した大手も余りに協力的で無い行政に対しては・・・。寺町社長の辛口で有り真実の山梨の対応を表現されたのだと思っております。私達製造業という枠の中で仕事確保というテーマがあります。全国行脚するだけの余力はありません。是非大手企業が山梨に対して残って更に新企業が進出していただけるような施策を期待したいですね。山梨の製造業の技・・・残せるように。

★国中エリア 塚原★

2月の国中動向は全体的に大きな落ち込みなど無く前月同様に動いておりました。半導体に関しては勢いが衰える事無く好調の波を維持しており、一部の企業様では年内中のスケジュールがほぼ決まっているとお話も聞いております。県外の話も聞いても日本全国に半導体の仕事が回っており、仕事量の多さに捌き切れない状況が出て来ているとの話も聞きます。半導体の勢いはまだまだ続きそうです。車関係は県内の下請け企業さんの動きも依然変わり無く好調なようですが、米国の新大統領トランプ氏の発言で国内の自動車メーカーの動きが気になります。トラック関係に関しても、生産ベースの落ち込みも無く通常の動きを続けております。機械メーカーは半導体の動きが好調に伴い下請け企業の設備投資が加速したようです。県内の下請け企業も3月と6月に導入する話を聞いております。年内は半導体の動きが好調との話ですが、その他の企業も良い話が出て来る事を期待したいです。

★郡内エリア 望月★

郡内の動向ですが、2月に入り、1月と変わらない状況が続いております。厳しい状況です。1月20日からトランプ政権が立ち上がりましたが、国の利益優先主義が色濃く出ております。首脳会議もありましたが意見が良く変わるトランプ大統領に日本がどう対応するかこれからの動向次第になります。それと日本での消費指数がマイナスと発表がありました。物が売れない、買わないと数字に表れてきました。厳しい現状です。工作機械メーカーに関して、F社ではロボットが好調のようでMCでも数百台の製造がはじまっています。M社は先月と変わらないそうです。半導体関係では、T社が好調で注文仕事量が限界を超えて依頼がきているそうです。また、今まで半導体の仕事をしていないところでも仕事がきているそうです。郡内における大手半導体関係のA社は仕事量が増えており3月期はさらに増えるとの事。自動車関係のトラック系に関して、仕事量は普通だそうです。乗用車関係は仕事ができておりこれから増えるかはまだ様子見のようです。食糧品関係も以前と同様、好調をキープしています。ただ、全体を見てトータル的に厳しい状況は変わらないのが現状で半導体の動きが目立つ展開となっております。今後の動向を注意深く見てまいります。

★上野原エリア 山田★

2月に入り前半は1月からの慌ただしさが続いています。しかし、中旬あたりから落ち着いてきてしまっているようです。しかし、半導体関係は忙しく、仕事が納期遅れになりだしている所も有るようですし、「夏辺りまでは半導体は忙しが続く」と言われるお客様が多いです。自動車、大型車関係の仕事は、多少減少気味なようですが、比較的安定しているようです。医療機関は、2月の調整が多いようですが、月末辺りから注文も戻り始めてくるとの情報も頂いております。機械関係のお客様は、親会社によって仕事量の差が非常に大きいようです。忙しいお客様では、稼働率のアップを親会社から御願ひされている所も有るようです。東京、埼玉、神奈川方面でも半導体関係は依然好調な動きを見せているようです。リピート品の増加など、納期が厳しい急ぎの仕事が回ってくるのお言葉が多いです。医療機関は、多少減少気味との事でしたが、3月辺りからは戻るとのお話も聞いております。しかし全体的に見ると依然、山梨県の製造業には厳しい状況が続いており安定した仕事量とはなかなかいかないようです。世界情勢から見ても、今後の動向が気になります。しっかり情報を集め皆様に報告して行きたいと思っております。

安来今昔 『和鋼博物館総合案内から』 Vol.7

(株)峰岸商会 代表取締役 峰岸 一郎

問屋街

地元の民謡安来節の中に、「七つ下がれば安来馬が戻る 馬の鈴の音足拍子」という歌詞がある。各たたらから街道へ、さらに中継の問屋を経て、安来の問屋街へとつづく、頻繁な往来を唱いこんだものである。安来では、旧山陰道から北へ鍵形に折れて、港の西灘の通りの両脇に多くの問屋が軒を連ねていた。これらの問屋は鉄だけでなく、米や綿、さらに木綿、鑑なども取り扱っていた。通りの一角に、明治32(1899)年、雲伯鉄鋼合資会社の事務所が開設される等、各時代をとおしてここが、和鉄を中心とした流通の要的位置を占めていたといえることができる。



鉄問屋永井家の様子
(江戸時代末期)